

# 相生山緑地 オアシスの森くらぶ ニュースレター21号 2004. 5. 8発行

発行 オアシスの森くらぶ  
編集委員会  
発行人 大 館 学  
編集人 近 藤 真 史

## 2004年度 総会報告 “第3代会長に大館さんが就任決定!!”

4月24日の午前10時から、山根コミュニティセンターにて2004年度の総会を開催しました。

昨年度の活動報告の後、今年度の活動計画について話し合わせ、1年間の活動スケジュールが了承されました。

(詳細は最終ページの「定例活動スケジュール」欄に掲載してあります。)

その後、昨年度の決算報告、今年度の予算案の承認に引き続いて、役員の改選が行われました。

役員改選は、3期にわたり会長を務めていただいた永田さんの意向もあり、新会長の選任を中心に話し合いが進み、出席者全員の強い要望と、本人の快諾

から、大館新会長誕生!の運びとなりました。

2004年度役員の面々は以下の通りです。

◇オアシスの森くらぶ

会 長：大館 学◎

副会長：眞弓 浩二(兼運営委員長)

会 計：村田 英二

書 記：近藤 真史

会計監査：小池 敦夫

運営副委員長：永田 修二◎

◇オアシスの森公園愛護会

会 長：五十川 幸夫

(※敬称略、◎は新任、無印は昨年度より継続)

なお、会員方々には別途、総会関係の資料を配布します。

### ▼2004年度総会風景



### 会員の皆様に

大館 学



この度、図らずも私が「相生山緑地オアシスの森くらぶ」の新しい会長を務めることとなりました。数多くの先達を差し置いて会長になったことで身の引き締まる思いです。永田前会長同様よろしくお願いいたします。

さて、会長としての抱負を以下に述べますので、皆様のご協力をお願いいたします。

**【その1】森で出会った人たちには、必ずこちらから挨拶をしましょう。**

土曜日曜ともなると多い日には200人を超える人たちがこの森を訪れます。私たちの活動を正しく理解していただくためにも「声かけ」は大切なきっかけとなります。

**【その2】安全で秩序ある森となるよう努力しましょう。**

森での活動で事故にあっては、せっかくのボランティアも台無しです。また、森を訪れる人たちの安全に対

しても配慮する必要があります。作業のやりっぱなしにならないように、特に伐採した竹木等の跡片付けまで計画的に行いましょう。

**【その3】活動に積極的に参加しましょう。**

里山を守る活動に一番必要なものは、やはり思いを持った人々の参画です。幸いなことに運営委員会、定例活動を含め多くの人たちが参加を求めています。毎月の活動のメニューはニュースレターに掲載されていますし、今年からは森の掲示板にも次回の案内をすることになっています。お祭りもあります。半日でもかまいません。ちょっとのぞいてみてください。

以上3点、特別難しいことではありませんが、継続していくことが大切です。経験の浅い私ですが頑張りますので、よろしくご協力のほどお願いいたします。

(補足)

オアシスの森くらぶも設立以来7年目を迎え、会の活動も安定してきてい

ます。特に毎月第2土曜日に開催される運営委員会では自由に参加した会員が、次回の活動に向けた計画や準備の打ち合わせをしたり、ニュースレターやイベント案内の発送を一緒にしたり、わいわいがやがやの半日を過ごしています。



### 会長を終えて 永田修二

ふとしたことから森くらぶの会長に推されて3年間。なににも会長らしいことはしてきませんでしたが、何とか務めることができました。これもくらぶの皆さんのおかげと感謝しております。森くらぶには、運営委員会システムが有効に機能しているため私でも会長で居ることができました。我々のようなボランティアグループでは、強力なリーダーが会を引っ張って行くことより、くらぶ員誰もが主役であることが重要だと思っています。今後は副運営委員長として、また一会員としてくらぶで「楽しんで」行きたいと思っています。3年間ありがとうございました。

## 1 月定例活動「ツツジの園づくり植生管理」

眞弓 浩二

春、それはオアシスの森がひととき美しく彩られる季節です。白い産毛につつまれた淡い萌葱色のコナラとあいまって、薄紫や薄桃色の彩りを与えてくれるコバノミツバツツジやヤマザクラなどの花は、我々日本人の胸をなぜか弾ませてくれます。

1月24日は、そんなほかほか陽気の絶好の柴刈り日和となりました。今回のテーマは、梅林の小径から西に続く尾根筋にある、コバノミツバツツジ・ヤマツツジ・モチツツジの群生地で、ツツジを引き立てる植生管理を進め「ツツジの花園」をつくろうというものでした。かつて相生山周辺の村人がこの森を活用し、手入れが行き届いていた頃、春には麓の村から相生山がピンク色に映って見えたとか……。そんなイメージを抱きながら我々は作業を進めました。

今回は講師に林進氏（岐阜大学名誉教授）をお迎えして、この管理作業の意義を学びながらの活動となりました。



林氏の指導で  
ツツジの園づくり

林氏の説明によれば、ツツジの花は葉が変化したものといえ、その変化には枝に蓄えられた炭素の量が作用しているということ。照度不足で光合成量が低下すると炭素の供給量が減少し、花芽の分化が進まなくなるといふメカニズムを学び、明るい森に花が咲くという現象に、なるほど！と合点がいったのでした。

また、この日の活動はリコーグリーンプロモーションの助成対象でもあり、リコー各社から20名もの参加者があり、春の森に賑やかな声が響きました。

ツツジに覆い被さるヒサカキやソヨゴ、コナラなどを丁寧に除伐していくと、徐々にツツジが顔を見せ始め、作

業が進むにつれて辺りは一面ツツジの園に……。こんなにツツジが多かったのかと改めて驚かされました。

森の一面に伐った柴材で枠をつくり、その中に枝葉をこまかく裁断し集積すると、虫たちのすみかの出来上がりです。その造形は大きな鳥の巣のようで、中に寝っ転がるととてもリラックスでき、いい気分を味わうことができました。

柴材で作った  
大きな鳥の巣



今回の作業は、来年の春の花付きに影響するとのことで今からその成果が楽しみです。でも作業後の4月10日にこの場所を訪れると、至る所でコバノミツバツツジが咲き乱れ、今まで見えなかった花が気持ちよさそうに春の日差しを浴びていました。

## 特別活動「ウッドデッキ完成！」

村田 英二

4月17日（土）の特別作業と24日（土）午後の作業により道具小屋の横にウッドデッキを製作しました。

デッキ材料はメープル（トウカエデ）の角材で、カナダから日本にアルミ地金を運搬する際のスパーサーとして利用されたものです。

これまで捨てられていたものを、今回小池さんの斡旋で大型トラック一台無料で相生山まで運んで頂きました。

デッキの土台には市電の敷石（御影石）の上に川の字に土台を組み、その上に角材を並べました。



敷石の上に桁となる  
角材を並べる

デッキ材はビスと金具でしっかり土台に固定して、さらに長持ちするように土台とデッキ表面には防腐剤を塗布しました。



安全のため床材を  
しっかりと固定



最後に防腐剤を  
塗布して完成

野波さんの指示のもと十分な施工管理により、立派なデッキに仕上がりました。

今回の作業はいつもと違い全くの大工仕事でしたが、皆さん楽しそうに作業に従事されていました。

今後はテーブルや椅子も作る予定であり、作業の休憩時間やお昼休みに憩いの場を提供してくれるものと期待しています。



▲締めはやっぱりビールで乾杯！  
（この至福のひとときのために汗を流した参加者たち？）



## 2月定例活動「アカマツ林再生プロジェクト」

大館 学

恒例となったアカマツ林再生プロジェクトも4年目を迎え、ゴウカキを行った林床には赤松の3年生苗をはじめとして、芽を出したばかりの幼苗まで数多く観察されるようになって来ました。しかし、一方で松枯れはとどまるどころを知らず、私たちがゴウカキを行った区域内での松の高木は数本になってしまいました。これも自然の摂理として受け止めなければなりません、その分新しい息吹きに期待したいものです。

さて、2月28日(土)の定例活動は天候にも恵まれ、オアシスの森西端に位置する散策路周辺のアカマツ林に

久しぶりに多くの人が集まりました。というのも、くらぶ員に加え、今年度の助成を受けたりコー中部隣の社員の皆さんの大勢の参加があったからです。最初に森におけるアカマツ林の特性や遷移の状況、管理にあたってのポイントなどについて真弓さんの説明をうけてから、現地へ。散策路で囲まれた区域を毎年東に向けて整備しており、今年は周回コースの中ほどまで来ました。枯れて倒木の危険のある松の除伐はもちろん、灌木の整理、林床のゴウカキを行い、暗い森が明るく、そしてさっぱりとした印象の空間に変身しました。いつもながら、人が沢山集まると作

業のはかどりがすこぶるいいのです。作業を終えた後、「西の覗き」のベンチからはるか遠くのツインタワーを眺めながら、幼いアカマツ達があのよう



▲除伐した松は、丸太切りして整然と並べた。これも公園としての身だしなみ。

## 3月定例活動「第6回萌え木祭り ～テーマ“食”～」

永田 修二

今年も3月27日に萌木祭りが行われました。今回で6回目となり、回を重ねるごとにこの祭りが森くらぶの年中行事として定着してきたようです。

この祭りは「自分たちが楽しんじゃおう!」ということから始まったのですが、今回は究極の楽しみ、「食」をテーマに掲げました。

好天に恵まれた当日、いつもの活動日より早く集まり祭りの準備に取り掛かる、皆手馴れたもので、手際が良いこと。

竹飯、食器用の竹切り部隊、野草の天ぷら用の食材調達係り、それぞれに分かれ森の中へ。この日のために焼いた竹炭に火が入り、早速焼き網に餅が

乗った。ガスコンロの上には豚汁用の大鍋が置かれ準備万端。

専属の焼餅係(小池さん?)が現れ、ご自身で需要と供給のバランスを微妙にとっていました。天気が良いからのどが渇く、早くも液体燃料が廻りいい気分。その間に天ぷらも揚げはじめ、宴もたけなわ、ほんとに楽しい一日でした。



▲▲相生山の竹林から伐り出した竹で、食器をつくる。



▲10時、いよいよ祭りスタート。まずは参加者の自己紹介から...

揚げたそばから参加者の胃袋に収まる野草の天ぷらに、調理係は大忙し。



## 「本日の御献立」

- ・焼餅
- ・焼き蕎麦味噌汁
- ・野草の天ぷら
- ・竹飯
- ・竹パン
- ・豚汁...等々

▲竹筒でつくった竹飯、竹パンは焼き具合も味も最高!

## シリーズ『森の住人たち』⑧

～ギンヤンマ～  
なんてったってアイドルギンヤンマ  
体長ヤンマ科  
7cm内外環境  
餌池や沼などの周辺  
昆虫類

「おっきいやゴが見つかったよ」  
「こっちは、ちっちゃいやゴだ」

通称トンボ池の観察会は、ヤゴが見つかるたびに子どもたちの歓声があり、さらにおとなの声も加わって、にぎやかだ。

この日採集したヤゴは、ギンヤンマ約30匹、コシアキトンボ・シオカラトンボの3匹。圧倒的にギンヤンマが多く、参加者一同「意外だ」「どうしてかな～」と。

私たち自然観察指導員メンバーが、オアシスの森開園後2年あとに行った調査がある。どんなヤゴが補虫網にかかるのか、どきどき、わくわく。実はその折の調査も大型ヤゴ10に対して、小型ヤゴ1の割合で、同様の結果だった。

なぜ、ギンヤンマが圧倒的に多いのか。どう

して・・・。

ヒントは、「命はつながっている」「食物連鎖」。春、小さな池を真っ黒に覆いつくすほどヒキガエルのオタマジャクシが誕生する。後足が観察できる頃、数は激減する。ヤゴなどの餌になるからである。そのヤゴも小さなものは、大きなヤゴに命を狙われる立場となる。まさに弱肉強食の世界。

ギンヤンマのオスは腹部第2・3節が鮮やかな水色、メスは緑色。和名は腹部第3節の側面下部にある銀白色紋にちなむ。

強い日差しの中、大きな体で池の上を飛び交い縄張りをパトロールするギンヤンマは、子どもたちのアイドル!

(文責 自然案内人 近藤記巳子)

## シリーズ『炭焼きの話』(第2話)

村田 英二

炭は太陽の恵みの結晶。この自然の恵みを有効に活用したいものです。

炭の利用で一番最初に思い浮かぶのは、何といっても炭火焼きでしょう。

炭火は燃焼時に水分を出さず、遠赤外線により食材の中まで火が通ることにより、美味しく調理できるといわれています。

鰻屋や焼き鳥屋が備長炭等の炭火焼きを売りにしていることには理由があるのです。

さて備長炭は高級品だから美味しく調理できる気がしますが、相生山の竹炭はこれに劣っているのでしょうか。私は必ずしもそうは思いません。竹炭は木炭に比べて着火が簡単で投入する炭の量で火力が調整ができる等結構扱い易いのです。但し燃焼時間が短いのが唯一欠点です。

自分の経験では安定した火力が持続する時間は約30分。魚を焼くだけなら十分な時間ですが酒を飲みながらの宴席では少し足りません。宴が盛り上がったと

たんに炭が消えてはいけけないので、時間を見計らって次の炭を投入しなければなりません。

私はこれまで数回竹炭でのバーベキューをしました。いずれも美味しく焼き上がり同席の皆さんにも喜んでもらいました。

そういえば3月の萌木祭りで焼きタケノコや蒸しパンづくり等に活躍しました。

続いての利用としては脱臭、除湿が上げられます。炭は木や竹の水分が抜けた後が無数の空洞になり、このなかに臭いや水分を取り込みます。

実際ご飯を炊くときに竹炭のひとかけらと一緒に入れるだけで驚くほどご飯の味が良くなります。

先日泊まった旅館では、床の間に竹炭を飾ってありました。消臭やマイナスイオンの放出効果を狙ったものだと思いますが、竹炭を作る者として親近感を持ちました。ちなみに我が家の玄関にモシ

竹炭を置いています。

また床下の除湿に炭を敷くと良いそうです。残念ながら試したことはありません。

この他池や川の水質浄化効果があると云われますが、炭の空洞が目詰まりすると効果がなくなる訳ですから、効果の持続時間が課題だと思います。

皆さんも相生山の竹炭を生活に役立つ様に使ってみては如何でしょうか。

さて今回は炭と環境との関わりについてお話ししたいと思います。

ホームページ管理・作成  
スタッフ 大募集!!

“森くらのホームページをもっと楽し  
くしたい!” “定例活動には出られない  
けど、自宅ですることなら手伝いたい”  
等々、ホームページに興味のある方、是非  
ご一報を!!

【連絡先】

masashi\_k@muf.biglobe.ne.jp (近藤)

## 定例活動スケジュール

集いの広場  
10時集合

## 5月22日(土) 相生山緑地の探検

オアシスの森(面積約20ha)のおよそ6倍もある相生山緑地。日頃訪れたことのない相生山緑地を自然観察しながら探検します。講師はインタプリターであり、森林インストラクターでもある川尻さんです。

## 6月26日(土) トンボ池周辺グレードアップ作戦

トンボ池周辺の草刈やよじ張りなどの作業をします。また、メーブル材を使ってテーブルやベンチづくりを行い、木製デッキスペースに設置します。

## 7月24日(土) 森の調査

「伐って育てよう雑木林」ということで柴刈り大会を継続しています。今回はこれらの基礎データとして、樹木の胸高周囲、樹高や林内照度など森のデータを調べて記録します。

## 8月28日(土) 巣箱づくり(室内活動)

## 9月25日(土) 森の小径づくり(尾根越えルート)

## 10月23日(土) 第6回どんぐり祭り(共催:天白土木事務所)

## 11月27日(土) 竹林管理

## 12月25日(土) 正月準備(門松づくり・梅の剪定)

## 2005年

## 1月29日(土) ツツジの園づくり植生管理

## 2月26日(土) アカマツ林再生プロジェクト

## 3月26日(土) 第7回萌え木祭り

## ● 会員募集中! ●

このクラブは、相生山緑地オアシスの森を活動の場として、昆虫、鳥類を含めた、多様性のある森づくり、環境づくりなどのフィールドワークを行い、会員同士のふれあいや、オアシスの森を通じて地域のひととの交流などを行う、楽しい集いです。具体的な活動内容は

- ◆オアシスの森を訪れる人々に、自然観察の方法や楽しみ方を知ってもらえるよう案内する。
- ◆公園管理者と協力しながら、オアシスの森での植生管理作業を行う。
- ◆植物、野鳥や地形、地質、気象などの調査を行う。
- ◆柴刈り大会や自然観察会などのイベントを適宜行う。
- ◆その他、目的を達成するために必要な事業を行う。

○会費は年間1,500円(保険料含む)です。主に連絡、郵送費です。

○振り込み先(郵便局)  
オアシスの森くらぶ 00860-7-33725  
連絡は事務局までどうぞ

森くらの  
情報センター

■参加申込みやお問合せなど

事務局  
伊藤百寿人 052-895-8523  
中島己治男 052-803-9534

■ニュースレターをメールで配信

申込先  
e-mail:isoiso@eva.hi-ho.ne.jp  
e-mail:masashi\_k@muf.biglobe.ne.jp

■ホームページをご覧下さい

e-mail: yoji-toyo@amy.hi-ho.ne.jp  
URL address:  
http://www.ami.hi-ho.ne.jp/yoji-toyo/  
mori-club/oac-index.html